

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1870101167		
法人名	公益財団法人 松原病院		
事業所名	グループホームのどか		
所在地	福井県福井市文京2丁目6-10		
自己評価作成日	平成 29年 9月 10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成29年9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用様一人一人が当たり前のごく普通の生活が送れるように支援しています。一緒に食事の用意をしたり、掃除を行ったり、外出やレクリエーションを通して喜びや楽しさを共有したり苦しみや悲しみは思いを分かり合えるように心がけています。
個別支援外出として、年に1回利用者様が希望している場所(自宅や馴染みのある所、墓参り)を行っている。その日職員が付き、電車に乗り帰郷を同行しています。また本人の意向をくみ取り活動に活かしています。
穏やかに過ごして頂けるような空間作りや関わり方を意識しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は福井市北部に位置し、2つの私鉄が乗り入れる駅が近くにあり、交通の便が良い。周辺には小・中学校、高校、大学や図書館、美術館等の文化施設があり、外出に最適な環境にある。また、職員が地区の新年会に参加しているほか、利用者と職員が地区の防災訓練に参加したり、地区の福祉祭りでは利用者が子どもと一緒に小物作りをしたり、事業所の避難訓練に地域住民に参加してもらうなど、地域との交流に努めている。お盆やお彼岸には得度を受けた職員が法衣に身を包み、利用者と共にお経をあげる等の取組みは、生活の中に潤いをもたらしている。また、母体法人の協力を得て、利用者の希望する喫茶店や以前住んでいた場所を訪問したり、外食に焼き鳥を食べに行くなど個別の外出支援を行っている。利用者の活動の様子は、個人のアルバムに収められており、楽しそうな様子から事業所の取組みの様子がうかがえ、家族の安心につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基にホーム独自の理念を掲げている。職員は目標を決め、理念や目標を実践し、ケアに取り組んでいる。目標の振り返りもする。	管理者をはじめ職員は法人の理念に基づき、事業所独自の理念を毎年新たに作成し、支援に努めている。職員は個人目標を定め、3か月毎に振り返りシートを利用し、実践状況を確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。地域交流会や運営推進会議、防災訓練に参加し、顔なじみになり、声をかけられるようになった。	自治会に加入し、地区の新年会に職員が積極的に参加している。小学校で開催される地区の福祉祭りでは事業所のブースが設けられ、利用者が地域の子供たちと小物作りなどを一緒に楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流会、運営推進会議を通し、認知症の実情と理解を伝えている。福祉祭りではバザーの売上金を赤い羽根共同募金に寄付している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回開催、利用状況、ホームないでの活動、様子をパワーポイントを見ながら説明している。包括支援センターの職員もさんかしているため、参加者の悩み相談に応じている。	町内会長、家族代表、地域包括支援センター職員で構成され、メンバーが参加しやすい曜日を定め開催している。事業所の活動報告や積極的な意見交換が行われ、時にはボランティアの方も会議に参加することもある。	会議内容や事業所の取り組み等、議事録を整備し、参加されない家族に送付するなど、家族からの意見や意向を引き出すきっかけとなるような取り組みが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、毎回包括支援センター職員に出席して頂き、相談を依頼している。定期的に介護相談員が訪問され、実情を伝えている。	地域包括支援センター職員とは毎月1回、定期的な会議を持ち、また、日常的に相談をするなど連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人研修や施設研修に参加し、身体拘束をしないケアにとりくんでいる。玄関のドアが開く時は音が鳴るようにし、一人歩きを見守り、阻止をしない。	身体拘束防止マニュアルを整備し、職員研修を通じて周知している。出ていこうとする利用者には、職員が連携し声掛けや付き添いをして見守っている。また、地域のひとり歩きネットワークに加入し、利用者の情報を他の事業所と共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回虐待の研修を開催し、参加している。また日々の業務申し送り時には異常がないか確認をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要がある方はいないが、研修には参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書、重要事項説明書、運営規程を読み上げながら説明し、同意を得た上で契約をして頂くように配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に介護相談が訪問し、利用者一人一人と面談を行っている。ご家族とは面会時や運営推進会議に意見や要望をもらえるようにし、改善点があれば、早急に対応するように努めている。	面会や行事で来訪する機会に要望や意見を聞き、運営に活かしている。玄関脇のカウンターには、意見箱と家族からの苦情や意見をまとめたファイルを置き、家族が意見を言いやすい環境づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りでカンファレンスや気づいた事を話合っている。	管理者は職員が意見を言いやすい環境づくりに努め、日々の申し送りなどで提案された案件は可能な限り運営に活かすよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年一回、法人からの自己評価、ストレスチェックを受けている。個人面談があり、実績を評価してくれている。希望があれば、非常勤～常勤への移行もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人や施設内、他機関研修に参加できるようにしている。施設内研修は年間のプログラムが出来ている。実践者研修も受講してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入して、会合や勉強会に参加し、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には可能であれば、本人と面談を行うようにし、ホーム内の様子や雰囲気を感じて頂くようにしている。入所後は不安にならないよう寄り添い話を聞いたり家族に連絡を取り、慣れて安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込み時や入所前に家族の困りごと、不安、どのように過ごしてきたか等を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	可能であれば、本人にも見学して頂き、心身状態を聞き取り、どのような支援が必要なのかを把握するようにしている。 ホームでの対応が困難だと判断した時は、他のサービス利用を家族に確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるということを忘れずに家事仕事を協力してもらったり、特技を役割として確認している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加、可能であれば、受診の同行に協力頂いている。面会時や電話で体調変化などを報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別活動で生まれ故郷に墓参りを言ったり、昔勤めていた職場周辺や実家へ行き、親族に会ったりするなどの支援をしている。	入所時にアセスメントで把握した情報や日々の気づきを基に、馴染みの喫茶店や昔住んでいた場所への訪問など個別外出支援計画を立て実行している他、年賀状や電話等利用者の馴染みの人との関係継続のための支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロア席は職員が相性の良さを客観的に見て、配慮している。トラブルがあれば、随時席替え等を行い、良好な関係が築けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても電話で、その後の様子を訪ねている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いを傾聴し、不安を取り除いているように努めている。 また本人の意向を確認しながら、ケアの提供に努めている。	職員は、利用者との日常会話から把握した思いや介護相談員による個人面談時の情報を参考に、本人の意向に添った支援に努めている。また職員ペースの支援ではなく、一人ひとりの生活のリズムを尊重したケアを目標としている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族に聞いたり、利用していた事務所から情報収集をしたり、家族の協力でセンター方式に落としたりして、情報を把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活のリズムが違うということ、出来ること出来ない事があるということ、職員側のペースにならない事。 本人の気持ちを確認しながら、無理強いのない生活をしてもらうよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プランは3カ月または6か月ごとに見直しを行っている。家族の意見や要望、個人別のケア記録や気づきを反映させ、介護計画を作成している。状態が変化した時は計画の見直しをし支援している。	利用者の事業所内での状況を把握し、本人、家族の意向に基づいて介護計画を作成し3か月毎に見直しを行うとともに、急変時には随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は個別記録に記入している。日勤帯、夜勤帯は利用者が言った言葉を記入している。プラン実施は実施状況表に記入している。 日々の申し送りや随時情報の共有は出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が病院受診や買物が困難な時はホームで対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の福祉祭りへ参加している。消防署には、避難訓練の計画の段階から相談に乗ってもらっていて、立会いの下訓練をし、指導、指示を受け安全に暮らせるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に本人、家族の要望により、かかりつけ医に受診できるように支援している。家族が対応困難な時はホームで対応している。	利用者が希望するかかりつけ医を継続して受診できる。受診時家族の同行が困難な時は職員が同行することもある。協力医の受診は職員が同行している。いずれの場合も受診結果は、家族と情報を共有し、健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算を取得していない為、特定の看護師への相談等が出来ていない。今後医療連携加算を取得予定。急変時は同一建物内の訪問看護ステーションの看護師に相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時はすみやかに必要な情報を提供している。入院中は可能な限り、職員が面会に行き、医療関係者で情報交換している。母体病院を退院するときはカンファレンスに出席している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に身体が重度化した場合、ホームでの対応が困難になる事を説明している。	契約時に重度化や終末期の介護について事業所の方針を説明し、同意を得ている。また、移行の際には、家族や利用者とのコミュニケーションを大切に、スムーズに移行できるよう支援している。今後は訪問看護との連携で、より医療面での対応が可能となるよう取組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の研修や内部研修に参加している。法人の研修は何回かに分け実施している場合もあるので、参加しやすい。参加出来なかった職員へは伝達講習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署立会いの下、避難訓練を実施している。夜間訓練想定は実際に午後7時から行っている。近隣住民も参加頂いている。	年2回避難訓練を実施している。夜間に実施した訓練には町内住民が参加し実際に避難を行った。また小学校で開催される自治会の防災訓練には利用者と共に参加し顔なじみの関係が出来ている。水や食料などは近隣の母体法人で備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ介助や入浴介助時はプライバシーを損なわないよう、声のトーンを下げるなど配慮している。	異性が介助する場合は利用時に説明し、了解のもとで介護している。トイレ誘導時は周囲に配慮した声掛けを行い、尊厳を損なうような言葉遣いなどがあればその場で注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外食・出前のメニューおやつ、飲み物、お風呂上りに着る服等を自分で選んでもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ一人一人の特技を活かすようにしている。生活歴や趣味だったことを参考にし、集中できるような事、楽しんでもらう事、出来ること、出来ない事を探り出し支援している。(掃除・洗濯干し・洗濯畳み・台所掃除など)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合い、気温に合った衣類の調節はホームで行っている。 自宅から持参した服を着用している。自分で出来る方はすべて自分で選び着ている。 定期的に外部へ散髪を依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき・切り・食器拭きなどで食への関心を持って頂いている。行事食(おせち料理等)を楽しめるように支援している。	日々の会話の中で嗜好を把握し、利用者の好みの献立を取り入れるよう努めている。食器は優しい色合いの磁器を使い、また職員も利用者と一緒に食事をしながら見守りを行うなど、家庭的な雰囲気を大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表に一人一人が摂取した量を記載し、不足していないかチェックしている。食事量については、残した内容、量をチェックし、個別記録に記入したり、嗜好の把握を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人に声を掛け、口腔ケアを促している。出来る限り見守り、誘導を行い自己ケアに努めている。 法人の歯科衛生士による指導も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記入していることで、時間を見てトイレ誘導を行っている。	利用者はリハビリパンツを使用し、排泄はほぼ自立している。利用者の状況に応じて、排泄チェック表を活用し、声掛けや誘導をしてトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を見て、便秘の時は病院より処方された下剤や整腸剤を服用している。便通が良くなる食材の摂取に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一定の決まりはあるが、その日の気分や体調に合わせて入浴を行っている。	入浴は基本、月曜日と金曜日の週2回、個浴で実施している。入浴日以外には必要に応じてシャワー浴ができる。その他、ゆず湯やしょうぶ湯など季節感のある入浴を楽しめる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調の変化に合わせ、居室で休んでもらったりと促している。随時様子を見に行き、安心してもらえる言葉かけをして退室している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後は医療関係記録表を記入している。変薬があった時は申し送ったり、個々のケア記録表に添付するようにして周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ、干し、台所手伝い、掃除や趣味など生活歴を活かし日課となっている。職員と一対一で居室で対話する事もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換運動の為、散歩に出るようにしている。年に一度個別支援として希望を聞き、本人の行きたい場所や馴染みの場所へ行くなどの支援をしている。	近くの公園へ散歩に行ったり、図書館を利用するなど外出の機会を持つよう努めている。本人の希望に沿って作成した個別の外出支援計画があり、利用者の喜びとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からの預り金制度を取っている。紛失する事もありうるので家族に同意を得て2~3千円程度自分で管理している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもかけられるようになっているが、かけてほしいと言われるので、職員がかけ、本人に代わっている。掛ってきた電話はすぐに本人に取り次いでいる。年末には年賀状を作成している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間はブラインドカーテンで採光の調節をしている。レクリエーションで月々壁面に張る季節の掲示物を作成している。台所や浴室がそばにあり、生活の場は近い。和室で休んでいる方もいる。	共用空間は南側に大きな窓があり、採光もよく明るい。職員がいけた季節の花が至る所にさりげなく飾られている。また窓越しに向かいにある中学校の生徒の生き生きした活動を見ることができ、穏やかで居心地の良い空間となっていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	トラブルがあれば早急に席替えをしている。気の合う人との席の配慮、窓辺の椅子に座り、中学生の部活を眺めているなどしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテーブル、いす、衣類掛け、テレビ等使い慣れたものが持ち込まれている。孫の結婚式の写真や位牌等を持って来てもらい安心できるようにしている。	利用者が使っていたテレビやベッドが持込まれ、これまでの生活が感じられる居室となっている。居室入口には暖簾がかけられ、直接部屋の中が見えないようプライバシーにも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は手すりが設置されているので、安全に移動は出来るようになっている。トイレ、浴室、非常口は分かりやすいように大きな字で表示している。		